

【高等学校用】

令和6年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| 学校名 | 佐賀県立唐津南高等学校 |
|-----|-------------|
|-----|-------------|

| | |
|------------------|--|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 資格取得への取り組みは十分にできたが、進路希望達成へつながる基礎学力の向上には改善の余地がある。より高い目標設定を促すためにも、さらに充実を図ってきたい。 挨拶や礼儀作法など、将来の社会人としての資質向上につながる教育には課題が残る。他者への思いやりや郷土愛を育む教育への取り組みにも、工夫をしていく必要がある。 地域貢献活動や、地域の各団体との連携による商品開発、交流活動、インターンシップ等を行うことができた。今後も地域とともにある学校づくりに邁進したい。 教職員の時間外在校等時間は減少し、健全な傾向にある。教職員のモチベーション維持にも配慮しながら、業務の見直し、その改善に努め、学校活性化を図りたい。 高校入学者選抜の特別選抜に「教育課程枠」を導入し、本校への志願者を増加させることができた。今後も学校の魅力をいかにアピールしていくか検討し、実践してきたい。 |
|------------------|--|

| | |
|----------------------------|--|
| 2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標 | <p>【スクール・ミッション】</p> <p>○農業学科と家庭学科を並置する専門高校として、農業と家庭の専門的な知識・技術を習得させ関連産業を担うスペシャリスト（職業人）の育成を行うこと。</p> <p>○地域（地方公共団体、産業界、農業大学、高等教育機関、NPO等）との連携を図り地域貢献を実践することで、唐津に根ざした「開かれた学校づくり」を目指すこと。</p> <p>【学校教育目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●豊かな人間性や社会を生き抜く力及び自ら実践する態度を養成する。 ●勤労、責任、協力を重んじる生活態度を養成する。 |
|----------------------------|--|

| | アドミッション・ポリシー | カリキュラム・ポリシー | グラデュエーション・ポリシー |
|-------------|--|--|---|
| 3 スクール・ポリシー | <ul style="list-style-type: none"> ○基本的な生活習慣や基礎学力を身につけ、様々な教育活動に積極的に取り組み、将来、地域産業を担おうと志すもの。 ○各学科の学習内容をよく理解し将来の進路目標を実現するために積極的に学習に取り組む、専門的な知識・技術を深めようとするもの。 ○本校の核として生徒会活動（部活動）、農業クラブ活動、家庭クラブ活動等に積極的に取り組む、意欲と能力のあるもの。 | <ul style="list-style-type: none"> ○「基礎的・基本的な学力」を育成するために、わかる授業・できる授業を実践する。 ○全ての教科で「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った探求的授業を展開し、これからの時代に求められる課題探求力やコミュニケーション能力を高める授業を実践する。 ○地元産業や地域との関わりを学び、地域資源の活用について研究するとともに地域関連機関との連携を強化し地域課題の解決を図る。 ○各学年で計画的なキャリア教育を実施し、進学・就職への理解を深め生徒の希望する進路実現を図る。 ○農業・家庭の学習を通して食糧や自然環境問題等についての知識・技術を習得し、持続可能な社会のあり方等についてグローバルな視点での課題解決能力の醸成を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ○素直な心で学ぶ意欲と態度を育成する。 ○専門的な知識・技術を習得し、自ら実践する態度を育成する。 ○豊かな人間性や社会を生き抜く力を育成する。 ○勤労、責任、協力を重んじる生活態度を育成する。 ○社会の変化に柔軟に対応し、地域社会の発展に貢献できる人材を育成する。 |

| | |
|------------|--|
| 4 本年度の重点目標 | <p>スローガン『挑戦と成長の喜びを実感し、更なる高みを目指す！』</p> <ol style="list-style-type: none"> （1）基礎・基本の定着と学力向上を図り、確かな学力のもとに、より高い目標による進路実現を目指す。 （2）元気な挨拶、礼儀作法を身に付け、優しさや思いやりの心を醸成し、将来社会人としての資質向上を目指す。 （3）地域との連携を強化し、地域資源の活用や地域貢献を推進する。また、適宜情報発信を行うことで、地域に根ざした信頼される学校づくりを目指す。 （4）成果の見える化を行い、次の取組への意欲増進を図る。 （5）働き方を再考し、業務改善を推進することで職場環境の最適化を目指す。 |
|------------|--|

5 重点取組内容・成果指標 中間評価 最終評価

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|--------------------|--|--|--|-------------|---|-------------|---|---------|--|
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ●学力の向上 | ○専門的な知識・技術の向上 | ○卒業までに3級以上の資格を3つ以上取得した生徒90%以上 ○日本農業技術検定3級の合格者70%以上 ○家庭科(被服製作・食物調理)技術検定の合格者100% | ・資格取得の重要性を意識づけ、自ら取得に向けて努力するように指導する。 ・専門教科に関わる資格については、専門知識及び技術習得の目標として重点的な指導を行う。 | A | ・3年生については、3つ以上の取得者は94%となっている。 ・農業技術検定の合格者は66.7%であった。 ・家庭科技術検定の合格者は100%であった。 ・外部講師を多く導入し、専門性を高めている。 | B | ・3年生については、3つ以上の取得者は94%となっている。 ・農業技術検定の合格者は53.8%であった。 ・家庭科技術検定の合格者は100%であった。 ・外部講師を多く導入し、専門性を高めている。 | B | ・技術検定の合格率を上げてほしい。 ・仕事や就業、起業について学ぶ機会を増やすことで資格や技術の意義が理解でき、モチベーションも高まると思う。 |
| | ○基礎学力の向上と家庭学習の習慣化 | ○朝の小テスト(国語・英語・数学)の平均点が80点以上 ○「朝の小テストが基礎学力向上につながった」と答えた生徒が70%以上 | ・事前指導で実施するテスト範囲の宿題を確実に、家庭学習を習慣化させる。 ・進路決定のために基礎学力向上の重要性を認識させる。 | B | ・14回の小テスト終了時点で、全テストの平均点は90.2点であった。 ・基礎学力向上につながったと考える生徒が88%いたが、家庭学習にはつながっていない。 | C | ・小テスト平均点は78.4点であった。 ・基礎学力向上につながったと考える生徒が82%、教職員が53%であった。家庭学習なしでテストを受ける生徒がかなりいる。 | B | ・中学程度の問題では平均点が低すぎる。 ・基礎学力の向上につながっていないと考える47%の教職員がとらえている疑問や問題意識を明確にし、改善方法を議論してほしい。 |
| ●心の教育 | ●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「地域貢献活動等を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付けた」と答えた生徒80%以上 | ・地域清掃活動や地域貢献活動を通して、思いやりや社会性を育成する。 | A | ・1学期末に学校ボランティア活動として、学校周辺の清掃活動を実施した。 ・思いやりや社会性が身に付いたと答えた生徒は94%であった。 | A | ・学期ごとに学校ボランティア活動として、学校周辺の清掃活動を実施した。 ・文化祭で多くの地域住民に生産物の販売等を実施できた。 ・思いやりや社会性が身に付いたと答えた生徒は97%に増加した。 | A | ・唐津南高校のイメージは外部の一般の方から非常に良い。 ・様々な活動を積極的に行って、他校より優れていると思う。 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめ重大事案件数0件 ○「学校はいじめの撲滅や生徒の悩みに対応したり、命の大切さを学ぶ教育をしていると思う」と答えた生徒80%以上 | ・いじめに関するアンケートを年間に複数回実施する。 ・いじめを覚知した場合は、迅速に事実確認を行い、対策委員会を開催して組織的に対応を図る。 | A | ・いじめアンケート等の実施等を行っている。 ・いじめは覚知1件のみである。 ・命の大切さを学ぶ教育をしていると答えた生徒が90%であった。 | A | ・2度のいじめアンケートを実施した。 ・いじめは覚知1件のみであった。 ・命の大切さを学ぶ教育をしていると答えた生徒は91%であった。 | A | ・学校の雰囲気が良い ・登下校時の生徒の笑顔が微笑ましい。 ・相談対応が機能している。 |
| | ●ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動 | ◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる」と答えた生徒80%以上 ○県内就職率(3年生)60%以上 | ・郷土の人材を活用した講演会・体験授業を実施する。 | A | ・佐賀を誇りや愛着を感じるに答えた生徒は83%であった。 ・3年生の県内就職率は83.3%であった。 | A | ・佐賀を誇りや愛着を感じるに答えた生徒は85%であった。 ・3年生の県内就職率は85.0%であった。 | A | ・地域愛のある人材は地域社会の維持と発展に必須。 ・地元就職率が高くありがたい。 |
| ●健康・体づくり | ●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 | ●「健康に良い食事をしている」と答えた生徒80%以上 | ・保健だよりを毎月発行し、健康に関する意識を向上させる。 | B | ・定期的保健だよりの発行ができていない。 ・健康に良い食事は80%が実施している。 | A | ・健康に良い食事をしていると答えた生徒は81%であった。 ・始業式や終業式などの生徒連絡を活用して定期的に健康指導を実施した。 | A | ・スポーツ科学や美容科学のエッセンスなども伝達できると「キレイ」「シアワセ」「スッパリ」「ツヨイ」など自己の成りたし身体や容姿、精神に気付けると思う。 ・食を扱う学校であるため、食育が見えないところでできていると思う。 |
| | ●「安全に関する資質・能力の育成」 | ●生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ・定期的自転車点検を実施し、自転車の整備状況を指導する。 ・交通安全講話を実施し、交通安全ルールの規範意識を向上させる。 | B | ・自転車による自損事故で3人がケガをしている。 ・現時点で生徒の交通事故は発生していない。 | B | ・自転車による自損事故で3人がケガをしている。 ・自動車との接触事故が2件発生し、2名の生徒がケガをしている。 | B | ・登下校時の歩きスマホやイヤホン自転車等を見かける。 ・事件事故の事例を伝えるとともに、加害者となる可能性もあることを意識させてほしい。 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 | ・定時退勤日の設定及び呼びかけ ・学校閉庁日の設定 ・部活動休業日の設定及び呼びかけ | B | ・定時退勤推進日は水曜日に設定し、毎週呼びかけを行っている。 ・時間外勤務による産業医面談は平均月1名。 | B | ・定時退勤推進日は水曜日に設定し、毎週呼びかけを行っている。 ・時間外勤務による産業医面談は平均月1名。 | B | ・生き物を扱っていることもあり難しいと思う。 ・部活動の指導が苦勞されていると思う。 ・働き方改革とDX導入は必須。優秀な教職員人材の確保にもつながるのでどんどん進めてほしい。 |
| ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育に関する教員の知識・技術と意識の向上 | ○「特別支援教育に関する知識・技術及び意識が向上した」と答えた教員80%以上 | ・特別支援教育に関する研修会の実施 ・関係職員間での情報共有 | A | ・特別支援教育に関する知識・技術及び意識が「向上した」と答えた教員は84%であった。 | A | ・特別支援教育に関する知識・技術及び意識が「向上した」と答えた教員は85%であった。 | A | ・意識向上に良い。 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | | | | | | |
|----------------------|-----------------------------|--|--|-------------|--|-------------|--|---------|--|
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ★唯一無二の誇り高き学校づくり | ★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信 | ★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合80%以上、教職員の割合85%以上 | ・課題研究及び農業クラブや家庭クラブの活動をとおして、地域との連携を強化し、地域資源の活用や地域貢献を推進する。 ・成果の見える化を行い、次の取組への意欲増進を図る。 | A | ・農業クラブでは全国大会で2名が優秀賞を獲得 ・家庭クラブは研究発表で県大会に出場 ・中学生に勧めたいと考える教職員は84%、生徒は91%であった。 | A | ・農業クラブでは全国大会で2名が優秀賞を獲得 ・家庭クラブは研究発表で県大会に出場 ・中学生に勧めたいと考える教職員は78%、生徒は93%であった。 | A | ・実践的、体験的な活動が積極的にできている。 ・同窓生として、受験倍率も高く、人気の高い学校であることは誇りに思う。 ・表彰者が多いことは学校の誇り。 |
| ○学校情報の発信 | ○校外への情報発信に努め、開かれた学校づくりに取り組む | ★県外からの入学者数1人以上 | ・学校だよりを年間9回発行し、随時学校HPに掲載する。 ○学校HPの「イベントギャラリー」を随時更新する。 | A | ・学校だより「梅豆羅」は7号まで発行 ・イベントギャラリーはほぼ月に1回は更新している。 | A | ・学校だより「梅豆羅」は7号まで発行 ・学校HPの「イベントギャラリー」はほぼ月に1.2回は更新している。 | A | ・SNS活用も進めると発信力が高まり、外部評価も自ずとされる。 ・和牛甲子園などで全国規模で認知される学校になってほしい。 ・バドミントン部以外でもアピールしてほしい。 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり